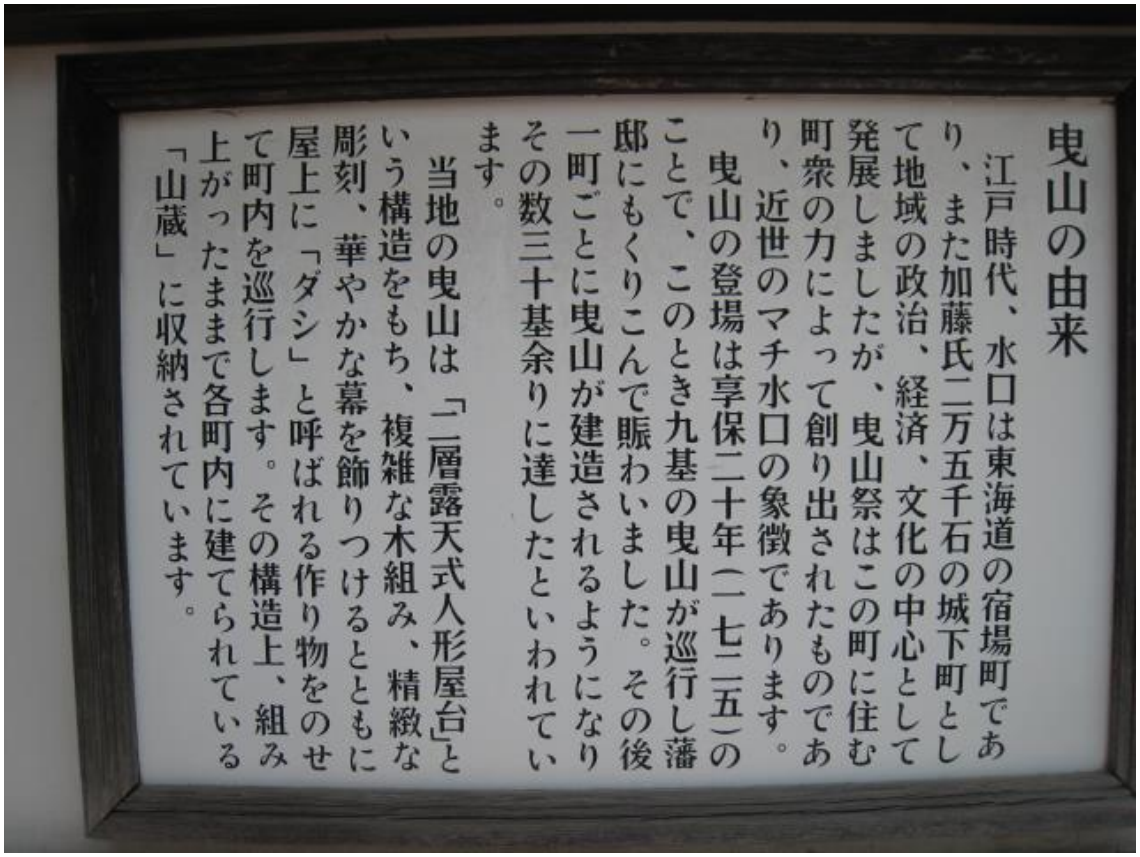
水口キリスト教会前で説明をしている中西氏

水口キリスト教会

水口神社各町内の山車



曳山の由来

江戸時代、水口は東海道の宿場町であり、また加藤氏二万五千石の城下町として地域の政治、経済、文化の中心として発展しましたが、曳山祭はこの町に住む町衆の力によって創り出されたものであり、近世のマチ水口の象徴であります。

曳山の登場は享保二十年(一七二五)のことで、このとき九基の曳山が巡行し藩邸にもくりこんで賑わいました。その後一町ごとに曳山が建造されるようになりその数三十基余りに達したといわれています。

当地の曳山は「二層露天式人形屋台」という構造をもち、複雑な木組み、精緻な彫刻、華やかな幕を飾りつけるとともに屋上に「ダシ」と呼ばれる作り物をのせて町内を巡行します。その構造上、組み上がったままで各町内に建てられている「山蔵」に収納されています。

水口神社曳山の由来を説明する看板

水口旧東海道の石橋

水口旧東海道の石橋

水口三筋町西からくり時計前で

水口三筋町西からくり時計（今日は故障していてからくりが見えなかった）